



10月に入りました。先月号は、『暑さの残る日々から寒さも本格的になる日まで、季節の移り変わりをしっかりと楽しみながら過ごしていきましょう。』と書きました。日中は暑い日が続きますが、朝夕は冷え込む日もあり、暮れる時間も着実に早くなってきています。

秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞ驚かれぬる

藤原 敏行「古今和歌集」(巻四)秋歌上・169

(秋が来たと、そのすがたが目の方には、はっきりと見えなけれども、耳の方に聞くさわやかな風の音に、それと知らされたことだ。)という季節ですね。さて、今月号では、読書週間と年度半ばの図書館利用状況のお知らせ、10月末にあるハロウィンについてのお話しです。

【 読書週間 】



2021年読書週間ポスター。標語は「最後の頁を閉じた違う私があった」

第1回の読書週間が開催されたのは、終戦もない1947(昭和22)年です。「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という志のもと、出版社や取次会社、書店、公共図書館を中心に、新聞社や放送局なども協力して行われました。当時、アメリカでは、11月16日から1週間、子供に本に親しんでもらう運動である「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が開催されていました。日本の読書週間の時期は、このチルドレンズ・ブック・ウィークを参考にしたのです。読書週間が秋だからこの時期に定められたというわけではないにしても、暑くも寒くもなく、過ごし良い秋は、読書にはもってこいの季節に思えます。☀️🍁🍂🍁☀️

【 ハロウィン 】

ハロウィンは、毎年10月31日に行われる、古代ケルト人の祭りが起源です。ケルト人の1年の終わりは10月31日で、この夜は秋の終わり=冬の始まりでもあり、死者の霊が家族を訪ねてくると信じられていました。時期を同じくして出てくる有害な精霊や魔女から身を守るために仮面を被り、魔除けの焚き火を焚いたりしたそうです。これにちなみ、31日の夜、カボチャをくりぬいた中に蝋燭を立てて「ジャック・オー・ランタン (Jack-o'-lantern)」を作り、魔女やお化けに仮装した子供たちが家を1軒ずつ訪ねては「Trick or treat.」と唱えます。20世紀に入り、アメリカで、宗教色のないイベントとしてもはやされてきました。玄関のライトを点けている、またはハロウィンの飾りつけをしていると訪問してもよいという意思表示になっているそうです。



【 図書館利用の報告 (令和3年10月6日現在) 】

個人別貸し出し

現在第1位の人が14冊。9・10位タイで4冊の貸し出し数となっています。今年度は本をたくさん借りて読んでくれた上位者に賞品を用意しています。まだまだ間に合いますので、あなたもぜひ挑戦してみませんか？貸し出し数を伸ばして、ステキな賞品をゲットしましょう。📖📖

クラス別貸し出し

1位3年2組61冊・2位2年2組36冊・3位1年2組34冊となっています。60冊を超える冊数の内容を見ると、授業で役立つ本だけでなく、心やワクワクを育てたりできる本も、皆さんが上手に見つけ出して借りてくれていることが分かります。さあ、あなたも「探す楽しみ」を味わいに図書館に来てくださいね。

全校貸し出し

3学年合わせて190冊の貸し出しがあります。一人当たり1.2冊借りたこととなります！このまま、年度末に一人当たり2冊の壁を突破したいですね。そのためにもみなさん、もっと来館して本を借りて読みましょう。また、読みたい本のリクエストも常時受け付けていますので、希望を出してください。図書館は皆さんのもの。皆さんが作る場所です。

日別来館平均人数

図書委員が日誌に記録をつけています。昼休みの平均来館者数は6.4人。2桁台にするために、昼休みはぜひお友達と誘い合わせて図書館へどうぞ。勉強もよし。進学の面接練習にも最適ですよ。